

たくましく心温かな中洲の子



◆ 令和2年 6月 5日(金)
◆ 諏訪市立中洲小学校

学校再開1週間

「たくましく 心温かな 中洲の子」目指して頑張ってます！



「当たり前子ども達の声が響くのが学校」そんな思いを改めてしみじみと感じた1週間でした。分散登校があったり、4月の第1週は学校があったりしたものの、本当に長い3ヶ月となってしまいました。保護者の皆様には様々なご心配やご苦労をおかけしましたが、おかげ様で何とか学校を再開することができました。ご理解ご協力に心より感謝致します。本当にありがとうございました。

ただ、もちろんこれで安心というわけではありません。むしろこれからが勝負だという緊張した気持ちです。そのために、分散登校の中でだんだんに身体を慣らし、新しい給食のやり方を練習したり、再開初日に各クラスでしっかりと「学校の新しい生活様式」を扱ったりしながらスタートしました。欠席も大変少なくみんなよく頑張りました。最初の1週間、大変疲れたことと思います。土日しっかり休んでまた来週元気で登校してくださいね。

1週間の校内の様子から・・・



やっと児童会もスタートしました。代表委員さんが、朝の挨拶当番をやってくれています。



休み時間の終わりの手洗いで、学年毎場所を決めて、なるべく混雑しないように配慮しています。足形を守って間隔を取り、みんなしっかり手を洗っています。



再開に合わせて清掃も開始。6年生に教えてもらいながら、1年生もしっかり雑巾がけをしています。



屋外での理科の授業。理科室は座席が対面になってしまったため、屋外や教室で、授業を工夫して行っています。

***【再開初日に放送にて話した内容です】* * * * ***

中洲小の皆さん、おはようございます。こうやってみんなが集まるのは、4月10日以来ですね。やっとまた、みんなで学校生活ができる日がやってきました。5月は地区別分散登校だったので、学校に来て日も違うクラ

スの友達とは会えませんでしたが。会えない友達へのメッセージを書いてくれた人もいますね。直接会うことができなくても、そんなステキなやりとりのできる中洲小の皆さんは素晴らしいです。

家で生活が中心の3ヶ月は、大変なことも多かったと思います。命を守るために我慢しなければならないこともたくさんありました。お父さんやお母さんが仕事の間、留守番をしたり、おじいちゃんの家に行ったりした人もいたと思います。学校で友達と勉強をするのと違って、家で計画した通りに勉強したり生活したりするのは、大変だったでしょう。早寝早起きがなかなかできなかった人は、なるべく早く元の生活に戻しましょうね。コロナのニュースを見て、とても不安になった人もいると思います。でも、みんなが命を守るために一生懸命頑張ったから、またこうやって揃って学校生活が送れる日がやってきました。この3ヶ月の中で、自分はこれを頑張れたなと思うことはもちろん、なかなかうまくいかなかったことも、これからの皆さんの生活にきっと生きていきます。この3ヶ月の間に皆さんの心も身体も成長しているんですよ。それを大事にしてまた今日からの学校生活を始めていきましょう。

さて、「新しい生活様式」という言葉を耳にしている人も多いと思います。残念なことに、学校がスタートしたからもう安心ではないんです。諏訪では感染する人がずっと0が続いているけれど、それをこれからも続けていくためには、この後クラスで先生達が話してくれることをきちんと理解し、みんながそれを守っていかなくてはなりません。私が言っていることは、いつも同じです。それは、学校目標の「たくましく 心温かな 中洲の子」を全校のみんなが目指していく、ということです。例えば、給食を取りに行った時に、どうして先生は「あいさつは先頭の子だけでいいよ。他の人は心の中で言ってね。」と言うのか分かっていませんか？分かっていない人は、給食室に入って必要ないことをしゃべらないはずですよ。大きな声でしゃべればマスクをしていてもつばは飛んでいます。給食室の先生方がどんなに気を付けても、皆さんがきちんと約束を守らなければ台無しになってしまいます。なぜ友達との間隔を空けるのか、なぜ手洗いをしっかりやらなければならないのか、そういうことをしっかり理解し、先生に言われたからではなく、自分でも考えて進んで行動するのが「たくましい」ということです。相手を思いやり、命を守る「心温かな中洲の子」でいるために、今までとは違う生活をみんなで力を合わせて創っていくことは、とても意味のあることで、みなさんのこれからの生きるとても大きな力になるでしょう。そんな難しいことも、中洲小の皆さんならきっとできると信じています。【中洲小からコロナを出さない】そんな強い気持ちをもって、「たくましく 心温かな 中洲の子」を目指して、新しい学校生活をみんなで創っていきましょう。

生活する中で、「これはもっとこうした方がいいんじゃないか」ということが出て来た人は、ぜひ校長先生に伝えてください。また、心配で夜眠れないことがある、という人がいたら、クラスの先生や保健室の花岡先生に相談してください。職員室の教頭先生や、自分が1番話しやすい先生、校長室にもいつ来てくれてもいいです。1人で悩まないでくださいね。

それでは、クラスの先生の話をしっかり聞いてこれからの生活について考える時間にしてください。

【6年生の日記から】

今思うと、教室でみんなが同じ年でいっしょに過しているのが、キセキだと思いました。同じ年に生まれ、同じ学校に通い、同じ教室にいるという事がキセキだと思います。コロナのおかげ(?)でいろんな事に気づかされました。前向きに考えると、この時期も良かったのかも知れない…と思います。貴重な体験が出来たと思えば、+（プラス）かも知れません。良かったなと少し思いました。

※こんなことを考えられる児童が育っていることを、大変嬉しく思います。



【季節は春から初夏にかわっています】

これは、校長室廊下の掲示物です。なぜこれを作ったかということ、みんなが学校に来ない間にも季節は例年通り巡り、桜から新緑、カリンの可憐な花からかわいい実へ、まいた種から芽が出てぐんぐん成長している…などの様子を子ども達に伝えたいと思ったからです。子ども達もぐんぐん成長しています。今までと学校生活のやり方を変えなければいけないことはたくさんありますが、そんな中でも子どもと共に知恵を出し合い、今できることを精一杯行っていきたいと思っています。